



新国立劇場 2024/2025 シーズンオペラ

令和6年度(第79回)文化庁芸術祭主催公演

ロッシーニ  
ウィリアム・テル  
Guillaume Tell / Gioachino Rossini

&lt;新制作&gt;

2024年11月20日(水)～11月30日(土)

会場:新国立劇場オペラパレス 2024年9月7日(土) 10:00～ 前売開始

**ロッシーニの幻の大作を日本初、待望のフランス語舞台上演！****スイス独立の闘いと秘められた恋が壮大に描かれる『ウィリアム・テル』**

ロッシーニ最後のオペラにして最大傑作『ウィリアム・テル』(ギヨーム・テル)を新国立劇場初上演します。日本国内での原語(フランス語)・舞台上演は今回が初めて。幻の大作が待望の上演です。

『ウィリアム・テル』は伝説の英雄ウィリアム・テル(ギヨーム・テル)をめぐるシラーの戯曲を原作に、ハプスブルク家の圧政下にあった14世紀スイス・アルプス地方の民衆の自由を求める闘いを描く歴史劇。農民たちの苦悩と決起、そして秘められた恋の物語で、上演時間が5時間に及ぶ壮麗なグランド・オペラ(グラントペラ)です。「『ウィリアム・テル』序曲」として老若男女におなじみの序曲、そして弓の名手ウィリアム・テルが息子の頭に載せたりんごを見事に射抜くエピソードはあまりにも有名。オペラ上演史に輝く記念碑的公演はオペラファン、クラシックファン必見です。

**大野和士芸術監督の指揮のもと、最高峰のロッシーニ歌いが揃う**

大野和士芸術監督自らの指揮のもと、ウィリアム・テル役にこの役を得意とするバリトン歌手ゲジム・ミシュケタ、青年アルノルド役に超人的な声で魅了するテノール、ルネ・バルベラ、恋人である皇女マティルドにスター・ソプラノのオルガ・ペレチャッコとベルカントの名手が贅沢に揃います。国内からも妻屋秀和、須藤慎吾、村上敏明、成田博之、そして安井陽子、齊藤純子とオペラ界トップ歌手が勢揃いし、大河ロマンにふさわしい、華やかでダイナミックな舞台を繰り広げます。演出は美しい舞台に定評あるヤニス・ココスです。

&lt;資料のご請求、ご取材のお問い合わせ&gt;

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当:高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi\_y1307@nntt.jac.go.jp

## ロッシーニ最後のオペラにして最大傑作『ウィリアム・テル』

ロッシーニ最大の傑作『ウィリアム・テル』。ベルカント・オペラの旗手としてヒット作を連発したロッシーニが、フランス風の美しい旋律を追求し、ロマン主義的なグランド・オペラの扉を開いた画期的作品です。

舞台となるのは、スイス連邦建国の起源とされる“リュトリの誓い”(1291年、スイス三原州——ウーリ、シュヴィーツ、ウンターヴァルデンの三州——が相互援助を誓った)の後のウーリ州。ハプスブルク家の圧政に喘ぐスイス・アルプスの民衆の闘いを描き、スイス側の青年アルノルドと支配者側のハプスブルクの皇女マティルドの身分違いの愛をもう一つの軸に、アルプス地方の豊かな自然美が瑞々しい音楽で描かれます。愛国者たちの苦悩と連帯、支配者との衝突と自由の勝利が劇的に語られ、幕切れでは清らかなハーブに導かれて自由を謳う崇高な大合唱が響き、血で血を洗う争いの物語が浄化されます。

上演困難な大作『ウィリアム・テル』の原語(フランス語)での舞台上演は日本では初めて。近年欧米の主要劇場でもフランス語版での重要な上演が続く中、オペラファンとしては絶対に見逃せない上演となります。

### ウィリアム・テル伝説

ウィリアム・テルはスイス建国伝説の英雄。13～14世紀のウーリ州に住んでいた猟師で、弓の名手。当時強い自治権を持っていたウーリ州の支配を強めるためハプスブルク家が派遣した総督がヘルマン・ゲスラー(ジェスレル)で、両者とも架空の人物とみられている。

伝説では、1307年11月18日、総督府のあるアルトルフで、ウィリアム・テルはゲスラーが掲げた神聖ローマ帝国の象徴の帽子への表敬を拒んだため捕らえられ、群衆の前で「弓の名手ならば息子の頭に載せたりんごを射抜いてみせよ。できなければ死刑」と理不尽な刑を課される。テルは見事に射抜くが、その時矢を2本手にしていたことを見咎められ、「2本目でゲスラーを射るつもりだった」と言ったために投獄される。しかしルツェルン湖を護送される際、舵取りのため縄を解かれた機に岩場に脱出、追ってきたゲスラーを2本目の矢で討ち暗殺を成し遂げた。

この伝説はスイスで建国の象徴として語り継がれるだけでなく、世界中で童話や劇の形で親しまれてきた。1804年にはフリードリヒ・フォン・シラーの戯曲が発表され、ロッシーニはシラーの戯曲をもとに1829年にオペラを発表した。ロッシーニのオペラはフランス語で書かれ、フランス語表記でギヨーム・テル Guillaume Tell となっている。

りんごのエピソードはオペラでもハイライトシーンの一つ。息子に矢を向けることをためらうウィリアム・テル(ギヨーム・テル)は屈辱に耐えジェスレルに命乞いをするが、「お父さんの腕を信じる」と誇り高く身をさらす息子ジェミの姿に逡巡を振り払い、名アリア「じっと動くな」を歌って見事にりんごを射抜き、群衆の歓喜を呼ぶ、劇的なシーンとなる。

### 巨匠ヤニス・コッコスによる新演出



演出は大野和士芸術監督が厚い信頼を寄せるヤニス・コッコス。演出家・舞台美術家として世界で活躍する巨匠が2021年4月『夜鳴きうぐいす／イオランタ』に続いて登場します。作品の背景を重視し、時代を横断して現代に反映させることを得意とするコッコス。抑圧と抵抗、そこから生まれる希望、そして親子、恋人との情愛を現代につなぐ演出からも目が離せません。

コッコス氏とクリエイティブ・チームは2021年の『夜鳴きうぐいす／イオランタ』では新型コロナの渡航制限で来日が叶わず、フランスと日本を連日繋いで完全リモート演出による新演出を行い、象徴的で心に染み入る、秀麗な舞台を生み出しました。困難な創作活動で培われた日本側スタッフとの絆で、大作の演出に挑みます。

### ミシュケタ、バルベラ、ペレチャッコ！世界屈指のロッシーニ歌いの声がオペラパレスに響く

タイトルロールのウィリアム・テルには、2022年『椿姫』で中村恵理と共演し、滋味あふれる表現で感動を呼んだ実力派、**ゲジム・ミシュケタ**が登場します。ヴェルディやロッシーニを得意とするバリトン歌手のミシュケタは、イタリア各地でウィリアム・テル役を歌っており、この役に精通したスペシャリストです。

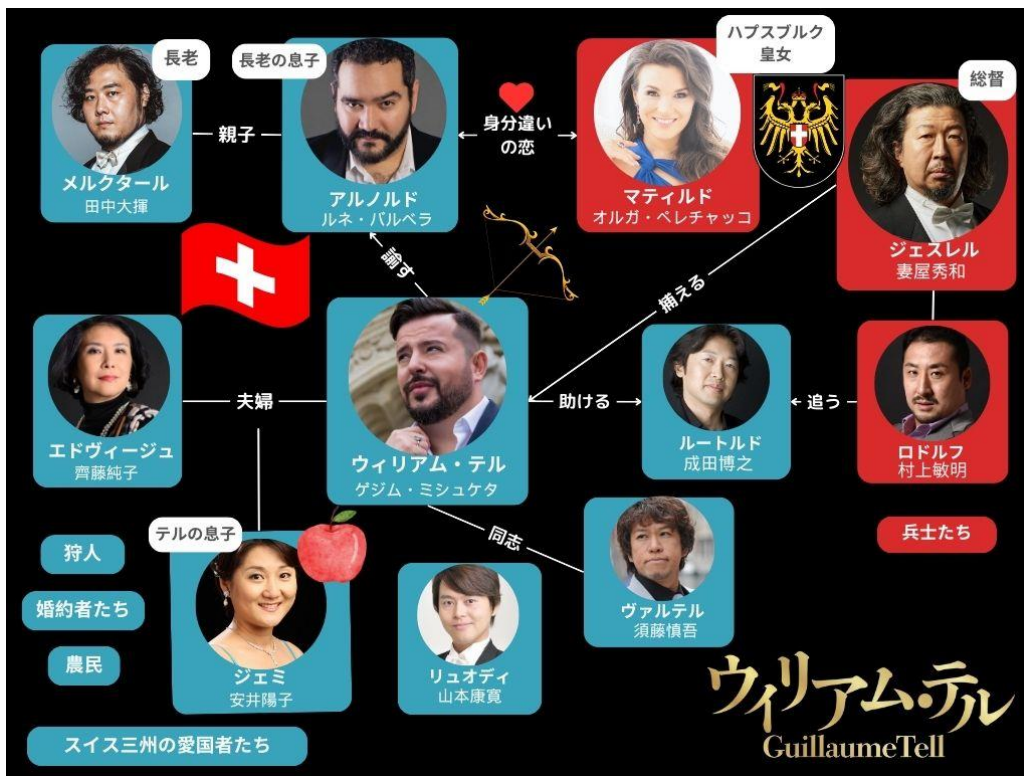
青年アルノルドは、破格のロッシーニ・テノール、**ルネ・バルベラ**。バルベラは2020年『セビリアの理髪師』、21年『チェネレントラ』とロッシーニ作品で続けて新国立劇場に出演、超人的な声とテクニックを渾身と披露し、『チェネレントラ』では連日アリアがアンコールされるほどのショーストップパーぶりを発揮しました。

アルノルドと恋仲となる皇女マティルド役は、今日のオペラ界屈指のスター、**オルガ・ペレチャッコ**。新国立劇場へはベルカントの新



女王として話題を巻き起こした 2017 年『ルチア』以来の登場で、更に豊かに成熟した表現に期待が集まります。さらに、総督として強権を振るうジェスレル役には、日本を代表するバス歌手妻屋秀和、総督ジェスレルの命で頭に載せたりんごを父が射抜くエピソードが有名なウィリアム・テルの息子ジェミにソプラノの安井陽子、テルの妻エドヴィージュにはフランス音楽のスペシャリスト齊藤純子が出演。須藤慎吾、成田博之、村上敏明らオペラ界トップ歌手が贅沢にも脇を固め、大河ロマンのような大作歴史劇をダイナミックに織り成します。

指揮は新国立劇場オペラ芸術監督・大野和士。ついに実現する念願の『ウィリアム・テル』上演に情熱を傾けます。苦悩と決起、葛藤と愛、誇りと希望が崇高に響く『ウィリアム・テル』にご期待ください。



### <「ウィリアム・テル」あらすじ>

オーストリア圧政下のスイスの山村。長老メルクタルの息子アルノルドはハプスブルク家の皇女マティルドへの恋に悩んでいた。村一番の弓の名手ギヨーム・テル(ウィリアム・テル)はオーストリアの支配に抵抗するよう、アルノルドを諷める。総督ジェスレルに反抗し村人を匿った咎で長老メルクタルが殺され、アルノルドは復讐を決意する。ウンターヴァルデン、シュヴィーツ、ウーリの3州の民が集まり決起を誓い合う。マティルドはアルノルドの決意を聞き、永遠の別れを交わす。ジェスレルは表敬を拒んだテルと息子ジェミを捕らえ、息子の頭に載せたりんごを射ることができれば命を助けると告げる。見事に射抜いたテルだが、ジェスレルに投獄される。アルノルドがついに蜂起し、脱出したテルがジェスレルを倒す。アルノルドとマティルドは再会し、自由を祝う民衆の声が崇高に響く。

### 芸術監督・大野和士からのメッセージ

24/25シーズン2作目の新制作は、ロッシニの最後のオペラとなるグランド・オペラ『ウィリアム・テル』(ギヨーム・テル)です。彼は速筆の作曲家でしたが、この作品だけは、半年にわたる時間をかけています。原作はシラーのドイツ語ですが、オペラ台本はフランス語で書かれ、今回は、そのオリジナル台本で演奏します。有名な序曲を除いて、全曲お聴きになった方はなかなかいらっしゃらないかもしれませんが、4幕からなるオペラには、オーストリア・ハプスブルク家の支配から解放されたいと格闘するスイスのテル親子と総督ジェスレルとの葛藤が描かれます。スイスの長老メルクタルの息子アルノルドは、なんとハプスブルクの皇女マティルドと熱い恋に陥っていましたが、スイスの独立のためそこから身を切り離し、戦いに向かうのです。



テルにはこの役で名声を博している、若くして威厳に満ちたゲジム・ミシュケタ、アルノルド役はルネ・バルベラ。2021年、新国立劇場の『チェネレントラ』のドン・ラミーロで、彼の高音の輝かしさと低音の美しさに思わず息を呑んだ方も多いことでしょう。また、マティルド役のオルガ・ペレチャッコは、今や世界を駆け巡るソプラノ歌手。高音の魅力の美しさはいうまでもなく、最近では中声部の充実も大変魅

力的です。演出は、ヤニス・コッコス、2021年の『夜鳴きうぐいす／イオランタ』ではフランスからリモート演出を行い、作品の叙情を見事に描き出しました。



## 演出家ヤニス・コッコスからのメッセージ

ロッシーニの『ウィリアム・テル』が今回日本で初めてフランス語版で上演されるということは、大変重要です。この作品は一般的にはあまり上演されてきませんでした。大変な大作で、非常に力のある歌手を必要とします。音楽的にも大変複雑で興味深い作品です。『ウィリアム・テル』は19世紀における、近代性への扉を開く作品なのです。全く新しい音楽的要素の数々をもたらした作品のひとつで、ヴェルディその他多くのオペラ作曲家がこの作品から様々な要素を汲み取り、『ウィリアム・テル』の独創性は長く息づくことになりました。ベルリオーズのような作曲家にも大変重視され、ベルリオーズは『ウィリアム・テル』に関し、注目に値する論考を残しました。この二人の作曲家にはある意味似通うところがあります。『ウィリアム・テル』

の広大さの中に、ベルリオーズの『トロイアの人々』の広大さと共通する何かがあるように思われます。『ウィリアム・テル』はロッシーニが40才にも満たない頃に書かれ、最後のオペラとなりました。追究を推し進め、音楽創作においてこれ以上進めないと感じたロッシーニは、この作品を最後に突然作曲をやめたのでした。

また、音楽的に卓抜した作品であると同時に、現代に通じるテーマが見えるという点でもこの作品は重要です。他国の支配下におかれた国が描かれる点です。ここでは、中世時代のオーストリアが、暴力的な支配をスイスに課しています。そして民衆、特に農民の反乱が起き、人々は暴君を亡き者にします。こうした事柄は、残念なことに永遠に存在するものです。今回の上演では、時代を特定せず、権力問題や、暴力的で不正な権力に対する反乱という、恒常的に存在する問題のある世界に取り込んで描き出したいと思います。私が作品創りで常に心がけている点でもあるのですが、歴史的・文化的な記憶が、現代の私たちの感性とないまぜになるようにしたい。そして、物語を尊重しつつも、時には裏切ることで、作品に忠実でありながら、こういうことができるようにできる、芸術的手段をみつければと思います。

指揮の大野和士さんとは既に何度も一緒に過ごしたこともあり、私にとって大変大切な音楽家です。また一緒にできるのを心から楽しみにしています。胸躍るようなところもありながら、時に夢想的なこの作品の二面性を、本当に感じさせてくれる音楽家だと思います。

そして前回『夜鳴きうぐいす／イオランタ』で、大変特別な形で協働して以来、私のとても大切なパートナーとなった新国立劇場のスタッフの皆さんと再会するのも楽しみです。作品創りを、現場ではなく、ビデオなどの手段を用いて遠隔で行ったのです。あの演出を通して、ある意味、私たちのつながりはより強固なものになったと思います。直接一緒に仕事をする事の渴望を実感し、それを超えて、最善の形で実現できました。

皆様とまたお会いできることを楽しみにしています。

## 新国立劇場公式ホスピタリティプログラム

### グランエクスペリエンス

オペラパレス2階ラウンジで軽食とお飲み物のサービスに加えて、グランエクスペリエンス限定のパスとギフト、特設のクロークをご用意し、より優雅で快適な1日をお過ごしいただけます。

さらに、クリエイティブスタッフや出演者との交流やおオペラパレス1階16列目センターブロックの舞台を見やすいお席でのご観劇など、グランエクスペリエンスのお客様限定の特別な体験をお楽しみいただけます。

将来的には、本プログラムで得た利益を障がいのある方や若年層の支援に還元し、サステナブルな取り組みへと発展させていく予定です。



日程: 2024年11月30日(土)14:00開演

料金: S席1階16列センター+グランエクスペリエンス: 99,000円

グランエクスペリエンス(ホスピタリティサービスのみ/別途要公演チケット): 67,100円

#### ■サービス内容

- 優先入場・専用クローク～公演開場時間の30分前から、会場が混み合う前にご入場いただけます。専用クロークもご用意します。
- 専用ラウンジ～オペラパレス2階ホワイエ右奥にご用意したラウンジにて快適にお過ごしください。
- オペラパレス1階16列目センターブロック確約～舞台全体が見渡せる1階中央の最上席を特別にご用意いたします。
- お飲みもの・お食事～開演前、幕間、終演後に軽食と、シャンパンなどのドリンクのサービスがございます。
- 出演者・スタッフとの交流～終演後、ラウンジ内にて出演者またはクリエイティブスタッフと交流いただけるお時間をご用意いたします。
- 特別パス・ギフト～ご観劇の記念に特別パスとお土産をご用意いたします。

委託: 令和6年度日本博 2.0 事業(委託型)

## <主要キャスト・スタッフプロフィール>

### 【指揮】大野和士

ONO Kazushi

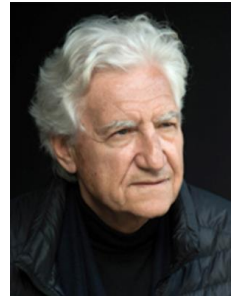
東京藝術大学卒業後、バイエルン州立歌劇場でサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。ザグレブ・フィル音楽監督、バーデン州立歌劇場音楽総監督、モネ劇場音楽監督、トスカニーニ・フィル首席客演指揮者、リヨン歌劇場首席指揮者、バルセロナ交響楽団音楽監督を歴任。現在、新国立劇場オペラ芸術監督(2018年～)及び東京都交響楽団音楽監督、ブリュッセル・フィルハーモニック音楽監督。これまでにボストン響、ロンドン響、ロンドン・フィル、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、フランクフルト放送響、パリ管、フランス放送フィル、スイス・ロマンド管、イスラエル・フィルなど主要オーケストラへ客演、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、エクサン・プロヴァンス音楽祭など主要歌劇場や音楽祭で数々のオペラを指揮。新作初演にも意欲的で数多くの世界初演を成功に導く。日本芸術院賞、サントリー音楽賞、朝日賞など受賞多数。文化功労者。フランス芸術文化勲章オフィシエを受勲。新国立劇場では『魔笛』『トリスタンとイゾルデ』『紫苑物語』『トウランドット』『アルマゲドンの夢』『ワルキューレ』『カルメン』『スーパーエンジェル』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『ペレアスとメリザンド』『ボリス・ゴドゥノフ』『ラ・ボエーム』『シモン・ボッカネグラ』『トリスタンとイゾルデ』を指揮している。24/25シーズンは『ウィリアム・テル』『ナターシャ』を指揮する予定。



### 【演出】ヤニス・コッコス

Yannis KOKKOS

アテネ生まれ。ストラスブールの演劇高等学院で舞台美術を学ぶ。舞台美術家としてコメディ・フランセーズ、アヴィニヨン演劇祭、ミラノ・ピッコロ座などでアントワーヌ・ヴィテーズ演出の多くの作品を手掛けた。主なオペラの美術に、パリ・オペラ座『マクベス』、ミラノ・スカラ座『ペレアスとメリザンド』、ウィーン国立歌劇場『魔笛』、ボローニャ歌劇場『ドン・カルロ』、ジュネーヴ大劇場『エレクトラ』などがある。87年から演出家としてボローニャ歌劇場、シャトレ座、オランジュ音楽祭、英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、マリンスキー劇場などで『ボリス・ゴドゥノフ』『ファウストの劫罰』『ヴェニスに死す』『ジュリオ・チェーザレ』『カルメン』『ドン・ジョヴァンニ』『トリスタンとイゾルデ』『ペレアスとメリザンド』などを演出。スカラ座 98/99 シーズン開幕公演『神々の黄昏』、02/03 シーズン開幕公演『オーレードのイフィジェニー』も手がける。最近ではギリシャ国立歌劇場『エレクトラ』、パルマ王立歌劇場(22年)、ボローニャ歌劇場(23年)『運命の力』、ミラノ・スカラ座『ルチア』(23年)を演出。批評家協会賞、二度のモリエール賞、プラハ・カドリエンナーレ金賞、フランス芸術文化勲章など受賞多数。98年、ウェルシュ・ナショナル・オペラ『皇帝ティートの慈悲』がオリヴィエ賞最優秀オペラ作品賞を、シャトレ座の『トロイ人』の演出で04年批評家賞を受賞。新国立劇場では19年オペラ研修所試演会『イオランタ』、21年『夜鳴きうぐいすノイオランタ』を演出した。



### 【ギョーム・テル(ウィリアム・テル)】ゲジム・ミシュケタ(バリトン)

Gezim MYSHKETA

アルバニア出身。パルマで学び、06年AsLiCoコンクール優勝。マシー歌劇場ツアー公演『ドン・ジョヴァンニ』レポレロでデビュー。ヴェローナ・フィラルモニコ劇場、トリエステ・ヴェルディ歌劇場、パームビーチ・オペラ、シュトゥットガルト歌劇場などに出演を重ねる。近年の成功作に、グレンジ音楽祭、カリアリ歌劇場などの『マクベス』タイトルロール、パレルモ・マッシモ劇場『シチリアの晩鐘』ギー・ド・モンフォール、ベルリン・ドイツ・オペラ、ライプツィヒ歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ヴェローナ野外音楽祭『カルメン』エスカミーリオ、ハンブルク州立歌劇場、ライプツィヒ歌劇場『椿姫』、モンペリエ歌劇場『セビリアの理髪師』バルトロ、『リゴレット』タイトルロール、サン・カルロ歌劇場『シモン・ボッカネグラ』パオロ、ボローニャ歌劇場、トリノ王立歌劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ』アルフィオ、チューリヒ歌劇場『運命の力』フラ・メリトーネ、コモ、クレモナ、ブレーシャ、ベルガモ、ピサなどで上演された『ウィリアム・テル』タイトルロールがある。新国立劇場では22年『椿姫』ジェルモンに出演した。



### 【アルノルド・メルクタール】ルネ・バルベラ(テノール)

René BARBERA

アメリカのテノール。2011年オペリア・コンクール3部門を単独で受賞。最も刺激的なアーティストに急成長し、伸びやかな声と豊かな音楽性で活躍。これまでに、バイエルン州立歌劇場、サンフランシスコ・オペラ、シアトル・オペラ、ロサンゼルス・オペラ『チェネレントラ』ドン・ラミーロ、ミラノ・スカラ座、ダラス・オペラ、パレルモ・マッシモ劇場『椿姫』アルフレード、またウィーン国立歌劇場、サンフランシスコ・オペラ、パリ・オペラ座、オランダ国立オペラ、ローマ歌劇場、ロサンゼルス・オペラで『愛の妙薬』ネモリーノ、『ドン・パスクワレ』エルネスト、『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル『新聞』ジャンネット、『イタリアのトルコ人』ナルシスコなどに出演。23/24シーズンはパレルモ・マッシモ劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ『アンナ・ボレーナ』リッカルド・ベルシー卿、パリ・オペラ座『ドン・パスクワレ』エルネスト、『椿姫』アルフレード、ボローニャ歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、ヴェローナ野外音楽祭『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵に出演。新国立劇場には20年『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵でデビュー、21年には『チェネレントラ』ドン・ラミーロで熱狂を巻き起こした。



**【ジェミ】安井陽子(ソプラノ)**

YASUI Yoko

桐朋学園大学卒業、同大学研究科修了。二期会オペラ研修所第 43 期マスタークラス修了。文化庁在外研修員としてウィーンに留学、ウィーン国立音楽大学研究課程声楽科修了。クラーゲンフルト市立劇場のヘンツェ『若き貴族』イーダで欧州デビュー。同国フォアアールベルク音楽劇場『魔笛』夜の女王、ブレゲンツ音楽祭およびザンクト・ペルテン音楽祭でオフエンバック『青ひげ』小姓、ロザリンデに出演し高い評価を受ける。国内では 2008 年東京二期会『ナクス島のアリアドネ』ツェルビネッタで本格デビュー。新国立劇場では『魔笛』夜の女王、『ジークフリート』森の小鳥、『鹿鳴館』顕子、『ばらの騎士』ゾフィー、『アラベツラ』フィアッカミツリ、『ファルスタッフ』ナンネッタ、『ホフマン物語』オランピア、バレエ『カルミナ・ブラーナ』ソプラノ・ソリストなど数多く出演。22 年 12 月には台中国家歌劇院で上演された『魔笛』夜の女王役に招聘され、大成功を収めた。宗教曲から久石譲・交響組曲「もののけ姫」など、ミニマルミュージックまで幅広く活躍している。二期会会員。

**【ジェスレル】妻屋秀和(バス)**

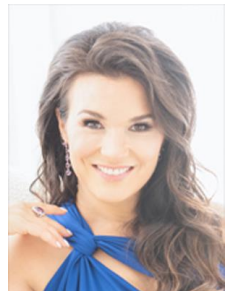
TSUMAYA Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学院オペラ科修了。1994～2001 年ライブツピヒ歌劇場、02 年～11 年ワイマールのドイツ国民劇場専属歌手。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。欧州、日本でモーツァルト、ロッシーニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R.シュトラウス等のオペラの主要な役を 100 役以上演じており、新国立劇場では『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アイダ』ランフィス、『リゴレット』スパラフチーレ、『ドン・カルロ』宗教裁判長／フィリップ二世、『ラインの黄金』ファールト、『魔笛』ザラストロ、『ルチア』ライモンド、『タンホイザー』領主ヘルマン、『トゥーランドット』ティムール、『夏の夜の夢』クインス、『イオランタ』ルネ、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・フォルツ、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵、『ペレアスとメリザンド』アルケルなど出演多数。芸術選奨文部科学大臣賞受賞。

**【マティルド】オルガ・ペレチャッコ(ソプラノ)**

Olga PERETYATKO

サンクトペテルブルク音楽院を卒業後、ハンス・アイスラー音楽大学、ハンブルク州立歌劇場オペラスタジオ、アカデミア・ロッシニアーナで学ぶ。説得力ある声と抜群の存在感で、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、テアトロ・レアル、リセウ大劇場、パリ・オペラ座、ザルツブルク音楽祭、エクサン・プロヴァンス音楽祭など世界の歌劇場、音楽祭に招かれる。ルパージュ演出『夜鳴きうぐいす』、ヴェンダース演出『真珠採り』など話題作へ多数出演。オーパス・クラシック賞、エコー・クラシック賞、アツビアーティ賞受賞。最近では、ベルリン州立歌劇場『イドメネオ』エレットラ、『トゥーランドット』リユー、『真珠採り』レイラ、ハンブルク州立歌劇場『ファウスト』マルグリート、コロソ歌劇場『アンナ・ボレーナ』、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル『ブルゴーニュのアダライド』タイトルロール、トリノ王立歌劇場『つばめ』マグダ、ハンブルク州立歌劇場で『ノルマ』(ロールデビュー)、ボローニャ歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナなどに出演予定。新国立劇場へは 17 年『ルチア』でデビューし大評判となった。

**【エドヴィージュ】齊藤純子(メゾソプラノ)**

SAITO Junko

東京藝術大学卒業、同大学院修了。フランス政府給費留学生として渡仏後、パリ、ニューヨーク、ボルドーなどで研鑽を積む。以降、ボルドー大劇場、ナポリ・サン・カルロ歌劇場、ラヴェンナ・ダンテ・アリギエーリ劇場、チロル音楽祭、南チロル音楽祭、サンタンデル音楽祭など欧州各地で活躍。オペラでは『フィデリオ』レオノーレ、『カルメン』タイトルロール、『ラインの黄金』『神々の黄昏』ヴェルグンデ、『ワルキューレ』ゲルヒルデ、また、びわ湖ホール『神々の黄昏』ノルン2、『ジュリエッタとロメオ』本邦初演公演アデーリアに出演。ソプラノからコントラルトまでの幅広い声域を持ち、コミカルなキャラクターからシリアスな役まで手掛ける。出演した『アルツィラ(タイトルロール)』『ニーベルングの指環』『裏切りの瞳』などの CD、DVD は、世界各国で発売されている。新国立劇場では『フィレンツェの悲劇』ピアンカ、『チェネントラ』ティーズベ、『修道女アンジェリカ』公爵夫人、『子どもと魔法』お母さんに出演。フランス在住。藤原歌劇団団員。



新国立劇場 2024/2025 シーズン オペラ  
令和6年度(第79回)文化庁芸術祭主催公演  
ジョアキーノ・ロッシーニ **ウィリアム・テル**  
全4幕(フランス語上演/日本語及び英語字幕付)  
Guillaume Tell / Gioachino Rossini

【公演日程】 2024年11月20日(水)16:00/23日(土・祝)14:00/26日(火)14:00/28日(木)14:00/30日(土)14:00

【会場】 新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】 S:31,900円・A:26,400円・B:18,700円・C:13,200円・D:7,700円・Z:1,650円

【前売り開始】 2024年9月7日(土) 10:00～

※予定上演時間 約5時間(休憩含む)

指揮	大野和士	ギヨーム・テル(ウィリアム・テル)	ゲジム・ミシュケタ
Conductor	ONO Kazushi	Guillaume Tell	Gezim MYSHKETA
演出・美術・衣裳	ヤニス・コッコス	アルノルド・メルクタル	ルネ・バルベラ
Production, Set and Costume Design	Yannis KOKKOS	Arnold Melchtal	René BARBERA
アーティストック・コラボレーター	アンヌ・ブランカール	ヴァルテル・フルスト	須藤慎吾
Artistic Collaborator	Anne BLANCARD	Walter Furst	SUDO Shingo
照明	ヴィニチオ・ケリ	メルクタル	田中大揮
Lighting Design	Vinicio CHELI	Melchtal	TANAKA Taiki
映像	エリック・デュラント	ジェミ	安井陽子
Video Design	Eric DURANTEAU	Jemmy	YASUI Yoko
振付	ナタリー・ヴァン・パリス	ジェスレル	妻屋秀和
Choreographer	Natalie VAN PARYS	Gesler	TSUMAYA Hidekazu
		ロドルフ	村上敏明
		Rodolphe	MURAKAMI Toshiaki
		リュオディ	山本康寛
		Ruodi	YAMAMOTO Yasuhiro
		ルートルド	成田博之
		Luethold	NARITA Hiroyuki
		マティルド	オルガ・ペレチャツコ
		Mathilde	Olga PERETYATKO
		エドヴィージュ	齊藤純子
		Hedwige	SAITO Junko
		狩人	佐藤勝司
		Un chasseur	SATO Shoji

合唱指揮	富平恭平
Chorus Master	TOMIHIRA Kyohei
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

芸術監督 大野和士  
Artistic Director ONO Kazushi

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/guillaume-tell/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】 新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)  
新国立劇場Webボックスオフィス <http://nntt.pia.jp/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

\* 2席 1,650円:公演当日朝10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

\* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引(20%)、高齢者割引、障害者割引、学生割引など各種割引あり。\* 未就学児入場不可。